

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	一般社団法人フードバンクいしのまき	
代表者名	末永 博	
連絡先	TEL : 0 2 2 5 (9 8) 5 9 9 6 FAX : 0 2 2 5 (9 8) 5 0 1 4	E-mail ishinomaki.fb@gmail.com

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	地域における循環型食料支援体制の構築
事業の目的	生活困窮者等に常時十分な食品が提供できる食糧支援体制の構築が図られるとともに、地域において行政・民間企業・住民参画のもと、安定的かつ持続可能な食糧支援活動と食品ロス削減の推進についての取組みを実施することにより、地域課題の解決について他人事とせず、身近な地域課題として捉えてもらうことを目的とする。
事業の具体的内容	・宮城県北部の各地域の市民に対し、生活困窮課題や食品ロス削減について啓発する「フードドライブ」の拠点の増設を行う ・また、市民から募った食品を行政等の生活相談窓口を介し、その地域で「食に事欠く」世帯へ提供し、地域における循環型の食料支援体制の構築を目指す

活動の開始から完了までの流れ	・企業や公共施設など不特定多数の出入りのある場所のリサーチと、フードドライブ活動への協力の要請を行った ・集まった食品の回収には、各地域で就労課題を抱える相談者の支援を行う団体との連携で、その相談者に回収、仕分け作業を行ってもらった ・もう一方の活動の効果として、そのフードドライブ実施の様子を見た地域の企業が社会貢献の一環として企業を挙げて社員が食品を持ち寄り、社内でフードドライブを実施し、募った企業からの食品の提供もあった ・自治体との連携、協働も模索したが事業活動期間には間に合わず、次年度へ持越しとなった案件が生じてしまっている（登米市各総合支所でのフードドライブ事業） ・食料支援の要請も更に、広域で多様化した支援団体からの要請が増加している
活動の成果と教訓	（成果） 「意識の向上」 フードドライブ実施の様子を受け、地域社会の食糧問題に対する認識が向上し、啓発活動として地域社会へ対し波及効果を与えることが出来た 「長期的な影響」 短期的で、一過性のある支援、啓発活動に留まることなく、自治体や社会福祉協議会などとの連携により、持続可能な支援体制を構築し、他の地域課題解決のためへの動きとなった （教訓） 「効率的な食品の収集・配布方法」 集めた食品を無駄なく、効率的に配布するための手順やシステムの構築が未完であった
今後の展望など	・当該事業完了後、令和6年度より寄贈される食品の回収などの効率化等を鑑み、また広範囲からの食料支援要請へ対する迅速な対応の必要性から宮城県北部での拠点を新設し、各地域において、より多くの市民に対する「食のフードセーフティーネット」の周知と企業への働きかけを行う。 - また、昨今の物価価格の高騰の影響を受けた「ひとり親」世帯への食料支援も、地域資源との連携で実施する。

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額 (円)	備考
福祉活動助成金	300,000	
自己資金	192,932	
合計	492,932	

■ 支出の部

費目	内容	予算額 (円)	実支出額
賃借料 (車両リース)	食品の回収・配送用 @ 27,500×7月	192,500	192,500
消耗品費①	支援対応ダンボール等資材 @ 10,000×7月	70,000	67,912
消耗品費②	フードドライブ用回収箱 @ 5,000×6箇所	30,000	44,350
燃料費	車両ガソリン代 @ 20,000×7月	140,000	176,904
印刷製本費	チラシ・ノボリ・ポスター作成一式	50,000	0
事務用品費	ラミネートフィルム他 @ 3,000×7月	21,000	11,266
合計		503,500	492,932

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。